

# ワツくん健康通信



平成26年6月発行

発行元：鶴見福祉保健センター

## ハチの巣、できていませんか？

6月から9月頃にかけて、ハチの活動がさかんになる時期です。これからハチの巣はだんだんと大きくなりますが、作り始めの段階であれば簡単かつ安全に駆除が行えます。早期発見・早期駆除を合言葉に、ご自宅の周りにハチの巣ができていないかチェックしてみましょう。



### Q1. ハチの巣ってどんな形？

家の周りに巣をつくることが多いハチに次の2種類があります。巣の形で見分けることができます。

#### アシナガバチ

- ・ハスの実を逆さにつるしたような形の巣
- ・下からたくさんの巣穴が見える
- ・成虫は巣穴には入らない
- ・ハチの性格は比較のおとなしい



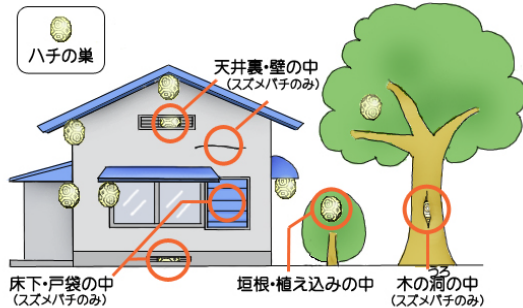
#### スズメバチ

- ・マール模様でボール型の巣（初期の巣はトックリのような形）
- ・ハチの出入りする巣穴は1か所のみ
- ・ハチは攻撃性が強い



### Q2. どこに巣をつくるの？

軒下や戸袋など、雨風をしのげる場所を好みます。使っていない物置の中なども要注意です。



### Q3. もし巣をみつけたら？

#### ⇒駆除する

初期段階の巣であればご自身での駆除が可能です。詳しい駆除方法については生活衛生課（下記連絡先）までお問合せください。アシナガバチ駆除機材の貸出しもおこなっています。

#### ⇒放置する

ハチは草木の害虫を食べてくれる益虫でもあります。人通りがない場所の巣であれば、駆除せずに放置しておくのも一つの方法です。冬になれば巣のハチは全体的になくなり、からっぽになった巣は翌年以降使われることはありません。



### ハチまめ知識 ～ハチは害虫？～

Q3でも述べましたが、アシナガバチやスズメバチは幼虫のエサにするために他の虫を捕獲するという、人間にとって有益となる習性も持っています。一説には、一戸建ての庭にアシナガバチの巣が一つできると、その年は庭で毛虫やイモムシを見ずに済む、とも言われます。

ハチは巣の防衛のために人を刺すことがあります。その行動から「危険な昆虫」というイメージを持たれがちですが、ハチたちも自然環境において、生態系のバランスを形成する重要な役割を持っているということを知っておいてください。



### ハチまめ知識 ～ハチのなかま～

上記で紹介したハチのほか、次のような種類のハチも身の周りではしばしば見られることがあります。見た目では怖がられることが多いですが、これらのハチが人を刺すことはほとんどありません。



クマバチ

花に集まるハチ。姿や羽音が大いため威圧感があるが、性格はおとなしい。



ドロバチ

壁などに泥を固めて巣をつくり、幼虫のエサとなる他の虫を捕獲して巣穴に運びこむ。



ハキリバチ

樹木に穴を開けて巣をつくる。家屋の壁やウッドデッキに穴を開けることもある。



# ～お肉はよく焼いて食べましょう～

一年を通してお肉が原因の食中毒事件が多数発生しています。

お肉を食べるときはよく加熱されたものを食べましょう。



	腸管出血性大腸菌 <sup>オー</sup> ( <b>0157</b> 、 <b>0111</b> など)	カンピロバクター
主な原因食品	加熱不十分の焼肉、ハンバーグ等	鶏の刺身、とiwかさ、鶏のタタキ、鶏生レバー、半生の焼き鳥など 加熱不十分な鶏肉
症状	激しい腹痛、下痢（血便も含む）等 重症化すると 溶血性尿毒症症候群（HUS）	下痢、腹痛、発熱 等 まれに、敗血症や髄膜炎に至る
潜伏期間	食べてから2～7日(平均3～5日)	食べてから2～5日(平均2～3日)

## Q 生肉でも新鮮なら食べられる？

生肉（牛、豚、鶏など）は、生体から食肉に加工された時点で、少量でも食中毒を起こすタイプの菌に汚染されている可能性が極めて高い食材です。

新鮮であっても、肉の生食は大変危険です。

豚レバーの生食は、食中毒を起こす菌だけでなく、E型肝炎に汚染されている可能性があります。規制されていないからといって生で食べることは絶対にやめましょう。

### 【予防するには】

- ① 生で食べない。
- ② 中心部の色が変わるまで十分加熱。（75℃ 1分以上）
- ③ 肉を調理したまな板や包丁は、その都度十分洗い、消毒。
- ④ そのまま食べる食品や他の食品が、肉に触れないように密閉して保管。
- ⑤ 自分で肉を焼く時には専用のトングや箸を準備して、食べるための箸と区別。
- ⑥ 肉をさわった手は、丁寧に手洗い・消毒。

湯引きや表面をあぶるだけでは菌は死にません。



お問合せは…生活衛生課食品衛生係（電話 510-1842）

## 熱中症予防のポイント

熱中症のピークは**7月～8月**、特に**乳幼児**や**高齢者**は注意が必要。

### 暑さをさける

- ◇ 暑い日は作業や運動を無理しない
- ◇ 気温が28度以上は要注意、エアコンを積極的に活用
- ◇ 外出時には日陰や涼しい場所を選ぶ、帽子や日傘を活用

### こまめに水分補給

- ◇ 喉が渇くまえに水分補給（汗を大量にかいた時は塩分補給も）
- ◇ 起床時や入浴前後も水分補給
- ◇ 尿量が少ない、色が濃いのは水分が足りていないサイン
- ◇ アルコールは水分補給にならないので水や麦茶を飲もう



お問合せは…福祉保健課健康づくり係（電話 510-1831）